

第3期第6回 横浜市市民協働推進委員会 会議録	
日 時	平成30年6月26日（火）午後6時30分から8時58分まで
開催場所	横浜関内ビル3階 会議室A
出席者	中島智人委員長、田邊裕子委員、時任和子委員、林重克委員、治田友香委員、松岡美子委員、松村正治委員、三輪律江委員
欠席者	
開催形態	公開（傍聴者1人）
議 題	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 平成29年度横浜市市民活動支援センター事業の評価・検証について イ 市民活動共同オフィス平成31年度入居団体募集要項（案）について ウ 協働事業の提案支援モデル事業最終審査方法（案）について <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜市新市庁舎の市民協働・共創スペースの検討について <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 平成30年度市民協働推進部事業の概要について イ 平成29年度横浜市市民活動支援センター自主事業について ウ 「協働事業の提案支援モデル事業」29年度の検証について エ 平成30年度版「支援制度ガイドブック」の発行について <p>その他</p>
議 事	<p>1 開会</p> <p>（中島委員長）皆様、お待たせして申しわけございません。それでは、本日も多忙のところ、お集まりくださりありがとうございます。これより第3期第6回横浜市市民協働推進委員会を開会いたします。</p> <p>本日の出席状況ですが、現在6人の出席で過半数の出席がありますので、市民協働条例施行規則第8条第2項の規定による充足数を満たしており、委員会が成立していることを確認いたします。</p> <p>さて、今回は平成30年度第1回目の委員会ということですので、石内市民局長よりご挨拶をお願いいたします。</p> <p>（石内局長）挨拶</p> <p>（中島委員長）ありがとうございました。</p> <p>また、平成30年度に入り、事務局の人事異動があったとのことですので、事務局から紹介をお願いいたします。</p> <p>（事務局）部長・課長紹介。</p> <p>以上でございます。また、大変申し訳ございませんが、この後に公務がある都合上、市民局長の石内はここで退席させていただきます。</p> <p>（中島委員長）それでは、お手元の次第に従いまして議事を進行してまいります。</p> <p>初めに、前回の議事録の確認をいたします。事務局から報告をお願いいたしま</p>

す。

(事務局) 資料により説明

(中島委員長) ありがとうございます。ただいまご報告いただきました前回の会議録について、何かご質問・ご意見等がありますか。これでよろしければ、前回の会議録についてはご確認いただいたということにさせていただきます。

2 議題

(1) 審議事項

ア 平成29年度横浜市市民活動支援センター事業の評価・検証について

(中島委員長) それでは審議事項から始めたいと思います。ア「平成29年度横浜市市民活動支援センター事業の評価・検証について」、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局) 資料により説明

(中島委員長) ありがとうございます。ただいまご説明いただきました内容について、何かご質問等がありますか。よろしいですか。

それでは、事業実施団体の方々に平成29年度の事業報告についてご説明いただき、その後、質疑応答を行いたいと思います。それでは事務局、進行をお願いいたします。

(事務局) では、今日の報告を行っていただきます自主事業実施団体をご紹介します。横浜コミュニティカフェネットワークさんです。事業名は「カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及事業」です。ご準備がよろしければ、説明を8分間でお願いしまして、1分前にベルを鳴らさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

では、よろしく申し上げます。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 資料に基づき説明

(事務局) ありがとうございます。では、質疑応答をお願いします。

(中島委員長) では皆さん、お手元のマイクでご発言ください。時間は8分間で

す。
では、皆さんがお考えの間に。ありがとうございます。報告書のほうも拝見いたしました。中間支援機能ということで、私にとってはとても新しい切り口でカフェというものを見つめてくださって、なおかつその実態を把握してくださっていると思います。私の興味関心は、それぞれのカフェは、それぞれのカフェでいろいろなところで連携しているということがこちらにも書かれていますが、例えばカフェというのは皆さん、地域の方が別に目的を持ってみたいなものでは始まってはいないとは思いますが、カフェがあるといろいろと期待されてしまうと思うのです。特に福祉の領域と連携している、例えば地域ケアプラザと連携しているところとしていないところがありますが、制度みたいなどころとの連携というのは、例えば窓口に

なってそちらにいろいろな方を紹介する、話をつける、そういうことが望ましいのか、積極的にやったほうがいいのか、それともそれは自由にやったほうがいいのかみたいな感触はありますか。私もすごく迷うところなのです。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 今おっしゃったのは、例えばケアプラザだったり、区民活動支援センターだったり、福祉的なのという意味ですね。

(中島委員長) どちらかというとなら福祉的なのです。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 例えばケアプラザとか社協との関係性が仕組みとしてあった方がいいかどうかというご質問ということでもよろしいでしょうか。

(中島委員長) そうです。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 私たちのコミュニティカフェの多くは、中学校区ベースとか小学校区ベースでやっていますので、当然、地域ケアプラザのエリアとかぶってきますし、私たちがやっている港南台タウンカフェは、もともと福祉色はそれほどなかったのですが、今やる中でどんどん増えてきているところがあります。きょうもケアプラザの職員と1時間半ぐらいいろいろと意見交換していましたが、地域の中のニーズがどんどん見えてくる中で、自分たちのコミュニティカフェの中だけでは当然できないことがたくさん出てきます。そのときにケアプラザのコーディネーターの方に力を発揮していただいたり、今ですと、例えば総合事業のサービスみたいな制度を使っていくとか、そのようなことはこれからもっとも重要視されてくると思いますし、今、現場で多分大倉山ミエルさんも含めてやっていたらと思うので、ますますこれから役割は大事になってくると思います。どういう仕組みがいいのかというのは今、私の中で出てきませんが、財源のこと、あとは我々が時間を使うと当然そこには見えないコストがかかってくるわけで、そのようなことも含めて何か一緒に協働で考える機会が欲しいとは思っています。

(中島委員長) ありがとうございます。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) コミュニティカフェのほうでケアプラザの職員さんに入っていたりという機会があると、今までケアプラザには直接は行けなかったのだけど、ここに来て職員さんに会えるとか、相談の窓口のハードルがとてつもなく下がっている感じはあります。あとは、今まで一方的に支援されるという立場の受けとめ方をしていた人たちが、お互いで支援し合うという形で、コミュニティカフェの場合はとても自然に出てきているという感じを私は持っています。

(中島委員長) ありがとうございます。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 長くなって済みません。世話人の米田です。コミュニティカフェもそれぞれテーマとか年数によって違うので、ザ・コミュニティカフェというものはないと思っています。ですので、仕組みにするというのは、ある意味ではそこを標準化していくという話でもあるかと思うので、それぞれ

の地域性とコミュニティカフェの特性というところをあわせて考えていく必要があるかと思えます。ありがとうございます。

(中島委員長) ありがとうございます。では、ほかの皆様、何かありますか。三輪委員、お願いします。

(三輪委員) 発表ありがとうございました。私も実は後ろの方の事例に入っているので余り突っ込めないのですが、少し意地悪な質問かもしれませんが、3年間の事業で見えてきたところの、コミュニティカフェ中間支援機能みたいなものを普及するに当たって、つまり今後どのような展開を期待しているのかというところを1つ聞きたいというのがまずあります。その中で、例えば先ほど、市内で回答率74%で非常に回答率が高いとはいえ、残り3割は回答がなかったのです。伴走支援している中で、この中でも伴走支援しているうちに中間支援機能に気づいてきた団体、最初からそれを目的というか、そういうことを意識している団体と、そうでない団体がこういうことを聞かれたり、やりとりしている中でだんだん気づいていって開眼していくような状況があり、まだそこまで至っていない人たちがむしろ答えてくれなかったのかと想像するとします。では、その人たちも中間支援機能的なものを果たすべきなのかどうかというところが、具体的に言えばこういう場をどのように戦略的に作っていくか、作っていく必要もあるのかみたいなことを議論されていたと私は記憶していますが、その辺の少し落としどころみたいなことについて少しお聞かせいただきたいと思っております。お願いします。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 初年度、みんなで検討会というか、勉強会をやったときには、実は半分以上の団体の方々が、私たちは中間支援などやっていないと宣言されていらっしゃいました。ただ、中間支援とはこういうこととということで実際それぞれやっている事業を落とし込んでいったときに、実は担っていたのだとか、そういう狙いもあったという気づきがありました。ですので、今、先生がおっしゃったように、途中から気づいてきたということが1つ大きな成果だと私らは考えています。それをさらに伸ばしていくことが、自分たちの団体、コミュニティカフェだけではなくて、地域全体がよくなっていくのだと気づかれた方が、先ほどの79%のうちある一定数はいらっしゃると私は感じています。

ただ一方で、コミュニティカフェが全て中間支援機能を果たすべきかということについては、当初からその必要性はあると思っております。居場所サロンということの中で活動していただくということもある一定数は当然あるだろうという理解しております。

あとは、今後について最初にご質問があったことにつきましては、もうこの補助事業は3年で終わってしまったのですが、今、我々が残しているかすかな財産と知恵を振り絞って継続的にやっていこうということで、この前、総会を開いて、昨日も世話人会を行いました。この中間支援の取り組みを進めていく事業の計画を考えております。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) アンケートにご協力いただいたところにまずアンケートの結果を一緒に読もう、話し合おうという場を今つくる計画を持っています。ですので、まだまだコミュニケーションを続けていきたいと思っていますし、私たちのネットワークの中で今後も一般向けにフォーラムなどを継続して開催する予定も持っておりますので、関心を持って一緒に考えたいと思えば、仲間に加わっていただく、場に参加していただく、という機会は今後もつくっていく予定でおります。

(中島委員長) ありがとうございます。時間になってしまいましたが、どうでしょう。何かこれは聞いておきたいということはあるですか。では、手短にお願いします。

(松岡委員) これから多分新しい形での、いわゆる自治ということを絶対求められる、もう来ていると思います。自治会に入るとか、そういう今までの既存のものではないところでの、これは1つのコミュニティカフェという形かもしれませんが、そういう形がどんどん出てきてきたときに、今回はこの切り口で3年間見てきました。今後のところで、どういう支援というか、どういう形を導いていくかということ、フォーラムとかも分かりますが、もっと何かまだまだ掘り起こしていないところがすごくあると思います。カフェというのはある意味とてもわかりやすいところ、ただ、継続するのはとても大変で、多分やっていくのは、気持ちのある人がいるときはいいですが、いなくなったらどうするの、これは5年後、10年後どうやっていくのとか、本当にお金の面で言ったら全く大変なところだと思います。そのところの考え方をどのように支援していくのかというのがすごく難しいと思っていました。今後のかかわり方を、フォーラムと先ほどおっしゃいましたが、もっと長いスパンで見ていったときに、どのように関わっていこうかと思っていられるのかだけ最後に聞かせてください。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 団体としてまだ長期ビジョンとか計画までは立てていないので、すみません、それぞれ個々に今思っていることも若干違いかもかもしれませんが、究極的に地域の中で、小中学校区なのか、区レベルなのかで、コミュニティカフェのあり方とか必要性、そこが果たす役割といったものを考える仕組みを私はつくる必要があると思っています。今、私がやっている港南台タウンカフェは13年目に入りましたが、地縁系の団体の方々から、やりたかったことはこういうことなのだということが、10年たってようやく同じ土俵に上げてもらったような気がしています。ですから、これはすごく時間がかかることで、それを無理に加速度的に押す必要はないのですが、スピード感もないともたないということもありますので、この辺は行政の支援とか中間支援機関の役割というものを果たすことで、10年でなくて、3年、5年でも地域の人にきちんと理解していただいて、財源のこと、担い手のこと、そのようなことも含めて考えていく場をどう作っていくかということが、私らに課せられている課題かと思っています。まずは市内の、今回

5カ所、先行事例というか、モデル事業的に地域フォーラムを行いました、そこを中心にどんどん深めていながら広めるということをやると、それには我々弱小団体だけの力では足りないので、今後またほかの事業なり行政の力もお借りしながら進めていきたいとは思っております。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 基本は代表の斉藤が申しあげたことと私も同じです。先ほど松岡委員がおっしゃった自治というところで言うと、コミュニティカフェに来られる方は、最初から自分たちで何かこんなことをやってみたくて来られる方ばかりではないのです。来ているうちに、何か自分にもできそうとか、やってみたくなるというような場所だと思っています。そういう何か新しい担い手、今まで地域にある機能をかかわって果たすのではない新しい担い手をはぐくんでいく付加機能があるというのが、この3カ年でわかってきたことでもありますが、そういうさまざまなコミュニティカフェが持っている機能の部分を、さまざまな財源を切り分けながら組み合わせる支えていくしかもやりようがないかと正直思っています。ここまでは中間支援機能でしたが、これから自主事業になっていきますので、経営をどうしていくかということについてもネットワークの中で話し合いを持っていきたいと思っていますし、今の機能の切り分けというところの中では行政と協働で引き続き考えていけたらというテーマもございまして、そこについては続けてコミュニケーションをとらせていただきたいとは思っているところで

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 少しだけ。8年間コミュニティカフェを地域で起点として開いていると、今回、市民局さんですが、例えば都市整備局さんや経済局さん、健康福祉局さん、そういう横つなぎを逆に私たちが出来るようになったらいいなということはずっと考えています。

(中島委員長) ありがとうございます。では、時間になりましたので、横浜コミュニティカフェネットワークの皆様、ありがとうございました。

(事務局) ご説明ありがとうございます。それでは、委員の皆様には先ほど申し上げましたとおり、事業評価シートの様式を明日メールでお送りさせていただきます。きょうのご説明や報告書、質疑応答をもとに評価シートの作成をお願いしたいと思います。7月4日水曜日までに事務局までご返送くださいますようお願いいたします。

以上です。

(中島委員長) ありがとうございます。

イ 市民活動共同オフィス平成31年度入居団体募集要項(案)について

(中島委員長) 次の議題に移りますが、本日の委員会は公開ですが、イ「市民活動共同オフィス平成31年度入居団体募集要項(案)について」及びウ「協働事業の提案支援モデル事業最終審査方法(案)について」及び協議事項「横浜市新市庁舎の

市民協働・共創スペースの検討について」は、一般に公開する前に委員会において公開で審議しますと公平性に欠けるおそれがありますので、この3つの議題につきましては非公開とさせていただこうと思いますが、委員の皆様、いかがでしょうか。ありがとうございます。では、了承いただきましたので、この3つの議題につきましては全て非公開とさせていただきます。

《これより非公開議題のため会議録の公開はありません》

(3) 報告事項

ア 平成30年度市民協働推進部事業の概要について

(中島委員長) では、報告事項に入ります。ア「平成30年度市民協働推進部事業の概要について」、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) 資料により説明

(中島委員長) ありがとうございます。何かご質問等ございましたら、委員の皆様、お願いいたします。よろしいですか。

イ 平成29年度横浜市市民活動支援センター自主事業について

(中島委員長) では、次に移りたいと思います。イ「平成29年度横浜市市民活動支援センター自主事業について」、説明をお願いいたします。

(事務局) 資料により説明

(中島委員長) ありがとうございます。

ウ 「協働事業の提案支援モデル事業」29年度の検証について

(中島委員長) 引き続きまして、ウ「協働事業の提案支援モデル事業」29年度の検証について」、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) 資料により説明

(中島委員長) ありがとうございます。委員の皆様、何かご質問等ございましたらお願いします。治田委員、お願いします。

(治田委員) ありがとうございます。まだ事業が始まったばかりなので、この段階でこの資料についていろいろと申し上げるのは難しいところもありますが、1点気になりましたのが、最後の「検証」のところの庁内連携体制とか、あと(2)の伴走支援です。ここについて正確な回答があるわけではないですが、先ほどちらっとここに書いていないことで事務局がおっしゃっていた、専門家との連携みたいなところが、この分野においてですが、専門家はいないと私は思っていて、それだけがひとり歩きすることの怖さを少し感じているところがあります。ここはもう少し「検討」のところできちんと、もしそういう方向で行くのであれば、議論しないといけないところかと思っております。具体的にどうこうというのは、今まだ動き中なのでお伝えできないところもありますが、一応そこだけお伝えしたいと思いま

す。

以上です。

(中島委員長) 治田委員、済みません、私から質問です。専門家というのは。

(治田委員) 例えばまち普請でいうと、まちづくりコーディネーターみたいな方々が何となくついてきてしまいますが、事業の内容によってはまちづくりではなくて別の主眼があつたりするときに、そのときの専門家は建築家とかではないし、必ずしも資格を持っている人ではなくて、事業の経験者だったり、事業の枠組みの経験者だったりするときに、行政側が考える専門家とはずれることがあるということです。

(中島委員長) ありがとうございます。ほかの委員、何かありますか。松村委員、お願いします。

(松村委員) これに関してではなく、今の専門家という話かもしれません。市民協働推進委員を何年もやっていて思っていることは、先ほど今年度の事業の説明も聞かせていただきまし、地域活動支援をやっているところは市民局さんですね。そのような活動を支援するような場合と同じような感じだから、30万円という金額なわけですよ。この額がすごくありがたい団体もありますが、市民側として、ではどのようなリーダーに育ててほしいかといったときに、そうすると30万円-90万円では事業を多少回せるかもしれませんが、とてもそれを専門にして経験を積んでいって、そこで専門性を発揮しながら市民社会を引っ張っていく感じにならない額です。例えば今おっしゃったような、何か資格を持っている専門家の人たちはもっと普通に、100万円、200万円の世界でない世界で、きちんといただいているわけです。その人たちは公的な何かしらの資格を持っていて、その人たちにはそれだけのお金を払う価値はありますねと言っていますが、例えば私たちの中で普通に市民活動を経験されてきて、治田さんがおっしゃっているような専門性を持っている方は非常に大変です。なかなか評価されないです。私たち自身もそういう人たちをきちんと評価していくような仕組みを持ち得ていないところもあるかもしれません。NPO法が出来てもう20年経っていますが、結局のところ、地域活動の一分野、地域コミュニティーが希薄化していったところの穴を埋めていったり、行政がだんだんいろいろなところにアウトソーシングしていく中の下請さんをやっているという感じに落ちついてきていて、協働しながら市民が力をつけていくという方法としてはうまくいっていないなということを最近考えています。今おっしゃったような専門家、市民社会の中でいろいろな経験を持っていて、コーディネートもとても上手だったりして、適切なアドバイスができるような方たち、本当はそういう人たちがきちんとそれを専門の仕事にしていきながら、いろいろな人たちにアドバイスしていく人たちが出てくるといいだろうと思いますが、そのような枠組みも私たち自身もうまく作れてきていなかったのだろうということを聞きながら反省しております。後のほうで推進の委員の改選の話もあるので、そろそろそのような変わることも踏

まえながら、きちんと何を目標にしてやっていくのかということを見据えながらやらないと、とりあえず今動いている制度を、目の前にあることだけを改善していっても大きくは変わっていかないような気もしています。

(中島委員長) 治田委員。

(治田委員) 松村先生のお話を伺いながら、本当は最後に言おうと思ったのですが少しお伝えすると、今日、インターンさんの発表があつて、3年間ご自身たちの立てた目標に突き進んだなという感じで聞いていましたが、結局のところ、その200万円を3年やる、それはインターンさんのところに入って、それがいろいろなふうに配分されているのは、それに対して何か文句を言いたいわけではなくて、中間支援機能というのをあそこで掲げたときに、その先にどうお金がつくのかというデザイン。それは行政だけではなくて、一応、一義的に言わせていただくとリビングラボみたいな企業がお金をいただくスタイルもあります。リビングラボはそれだけではないですが、そのような継続した運営をどうするかというところまで行かないと、結局NPOは精神論で、頑張っていこうねみたいな、何か清く正しく美しい話におさまってしまったのではないかと思います。そのところの議論に、もう多分きょうやってもだめだと思ったから言いませんでしたが、本来ならば市民活動側がもっと自分たちの力を引き上げていかなければいけません。一部、行政のほうでもう決まったお金を受けていく事業については人件費もそこそこ出るし、活動の継続性も担保されていますが、それ以外のものについては、そうでない現実をどう考えるか、それをきちんと考えられる人たちが協働提案事業にまずはエントリーしてくるといふ道筋を作ることが本当は求められているのではないかと思います時に、そこがちぐはぐで、30万円で頑張ってくださいとか、90万円で頑張ってくださいと言われてしまうところに、市民側がそれでいいと思われたら少し違ふと。

一方で、この市民局の予算は、人件費は入っていないですよ。それだけ行政側は本来ならばもっとお金ががが回っている中で、もっと私は行政にやってもらえることはいっぱいあるのではないかとこのところがありながら、でもこういう予算書を見ることも含めて、本来ならば協働というか、そういう文化を作っていくことにもなるのではないかと思います。これに対して文句を言ってもしょうがないのは分かっているけれど、このところをどうするかというところは、もう少し本来ならばここでもっと議論してもいいし、もっと外に発信していくのもありかなと思いました。

少し関連してお伝えさせていただきました。

(中島委員長) ほかの委員の方々、何かありますか。では松岡委員。

(松岡委員) 今、実際、自分が協働の事業として拠点の運営もやっているところで非常に思うところがあります。先ほどおっしゃった、本当にそういう確立した形になっていけばいくほど、本来の協働から離れていくというすごい矛盾を感じていたり、実際にそれは何だろう、何のためにこれを協働でやっていくのだろうというところ

ころにいつも立ち返らないと、極端な言い方ですが、下請のようなところに成り下がってしまうと言ひすぎかもしれませんが、本当に地域の中で市民活動として頑張っているところにもっと着目していくべきだし、それを私は、拠点はそれをやるべきだとずっと思っています。私たちがやるべきことは、本当に地域活動をしているところを、光を当てるといひ方をするとすごく変、上から目線で嫌な感じと思われるかもしれません。でも実際にそういうところがまだまだ足りていないと、これは済みません、自分の気持ちを今言ってしまうからあれですが、逆にやりにくくなっていく、この協働、自分の本当のミッションとしてやっていくべきことが離れていってしまわないかと。先ほどの市民活動支援センターが今度新しい市庁舎にできますと。そこが本当に市民の皆さんの何か実現できるような場所になるのでしょうかといったときに、出てきたものを見たときに、少し離れていると感じました。というのは、こういうものですね、ああいうものですねともう今、既存のところを提示するのではなくて、全く違う新しいものをもっと提案できるような風土になっていかなければいけないと思うのに、何かそこにすごく自分の中の矛盾を感じます。でもそれでいいわけではないと、事業者も考えなければいけないと思っています。ですから、協働でやっていくというときは、単なる事業者ではないのですというところの意識づけを植えつけるような組織が、そういう意味ではないのです。ですから、そこが弱くなってくるところ、済みません、少しまとまらないのですが、すごくこの協働事業のこのモデル事業とかそういうところに自分が関わりながら、自分自身のやっている事業にいつも事業者としての立ち返りも今すごく考えるのですが、そこのところは本当に真摯にやっていかないと、これだけの予算をつけてやっていくことの意義はとても重要だと思っています。そこは議論できる場、あるいは相談できる、本当の意味での話し合いができるような場がもっと欲しいと実は実感としては持っています。

済みません。感想のようになってしまいました。

(中島委員長) 今、松岡委員が現場からの切実な声を届けてくださいましたが、ミッションが変わっていってしまうとか、協働するとミッションドリフトとかとよくいいますが、協働する上で、これは先ほど治田委員がご指摘されましたが、支援することがとても大切だと思うのです。中間支援というのは、組織基盤の強化事業もやられていますが、協働がいつまでたっても対等にならないのは、市民活動団体側の体力というか、特に資金とか人材の面で対等にならないからなので、もし市の行政として対等に活躍できるような多様な市民活動団体が必要だと皆さんで決めれば、そういう支援することに対する支援というものもとても重要になってくると思います。いろいろな地域で地域の資金循環を支援したり、市民の資金循環を支援したり、そういう中で団体が行政に頼らない財源を獲得できるような数字ミッションをつくって、その上で協働するなどということも目指しているところもあると思いますので、そういう協働のあり方というものも考えていく必要があるかと、皆さん

の議論を伺って思いました。

治田委員どうぞ。

(治田委員) 恐らく今この提案支援のモデル事業についての検証ということにこのタイトルがなっていますが、これを経て、先ほど松岡委員がおっしゃっていたような、協働提案事業の課題も前に議論していたときよりもまた変わってきているところもあると思うので、それを議論する場も必要かと思いました。どういう場かは分かりませんが、きっとこれだけを議論してもだめというか、足りないのではないかと思いました。

以上です。

(中島委員長) 松村委員。

(松村委員) 最近、協働についても、毎年大きなフォーラムなどをやっていて、新しい協働のステージとか、企業の方とか地域の団体の方々も一緒にやるようになってきました。それはそれでそういう質的な変化は確かにあるとは思いますが、ちょうどNPO法から20年経ったということで見ただけの場合に、協働は多様になっていってはいらぬものの、そもそもはNPOと行政の協働みたいところを最初は柱にしながら動いてきたものが、それがうまくいかなかったからそのようになっているとも言えるのです。ですので、そろそろそうしたこともきちんと検証するような機会もあってもいいかと。特に今年であれば、そうしたことを検証するいい機会かと思いました。

(治田委員) それは行政がやるのですか。

(松村委員) 私たちかもしれません。

(治田委員) きっとそうですよね。

(中島委員長) 済みません。私たちは言いたいことを言っていますが、事務局で何かありますか。よろしいですか。

では、また7月2日にフォーラムがありまして、そこでいろいろと意見もいただくとお思いますので、治田委員、三輪委員と私とで代表して行ってまいりますので、またフィードバックさせていただければと思います。

エ 平成30年度版「支援制度ガイドブック」の発行について

(中島委員長) 続いて、エです。平成30年度版「支援制度ガイドブック」の発行について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) 資料により説明

(中島委員長) ありがとうございます。時間がありませんが、どうしても言いたいことがあったら、委員の方々、何かありますか。松村委員、大丈夫ですか。では、よろしければ次に移りたいと思います。

(4) その他

	<p>(中島委員長)最後に「その他」ですが、事務局からお願いいたします。</p> <p>(事務局)ー今後の会議日程等を説明ー</p> <p>(中島委員長)ありがとうございます。それでは以上をもちまして、全ての議事が終了いたしました。皆さん、何かありますか。よろしいですか。</p> <p>3 閉会</p> <p>(中島委員長)これにて第3期第6回市民協働推進委員会を閉会いたします。皆さん、長時間お疲れさまでした。ありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1：平成29年度横浜市市民活動支援センター事業の評価・検証について ・資料2：平成31年度市民活動共同オフィス入居団体募集要項（案）について ・資料3：協働事業の提案支援モデル事業最終審査方法（案）について ・資料4：横浜市新市庁舎の市民協働・共創スペースの検討について ・資料5：平成30年度市民協働推進部事業の概要について ・資料6：平成29年度横浜市市民活動支援センター自主事業について ・資料7：「協働事業の提案支援モデル事業」29年度の検証について ・資料8：平成30年度版「支援制度ガイドブック」の発行について